

マイブんだより

平成24年6月12日 第1号

発行 都城市教育委員会事務局

文化財課

◎ 平成24年度の埋蔵文化財保存活用整備事業が始まる

埋蔵文化財保存活用整備事業は、発掘によって出土した遺跡や土器、石器などを利用して、学校での授業や体験学習会などを開催し、子どもたちや市民のみなさんに埋蔵文化財についての理解と知識を深めてもらい、都城の特色ある歴史を知っていただくというものです。昨年に引き続き、明道小学校が6年生の総合的な学習で「ふるさと都城大発見」をテーマに、古代の都城について学ぶために、6回のシリーズで開催中です。この事業を担当するのは、埋蔵文化財を担当する職員です。これから、この「マイブんだより」でそれぞれの準備から授業や体験学習会などの様子、そのほか発掘を担当する埋蔵文化財担当職員の発掘調査の状況など、奮闘ぶりをみなさんにお伝えしていきます。

○ 明道小学校出前授業・体験学習会

- ①5/23(水) 都城盆地の誕生について～都城と火山活動～
- ②5/30(水) 縄文時代の暮らし
- ③6/6(水) 石器使用体験～石の道具を使ってみよう～
- ④6/11(月) 米づくりのはじまり～弥生時代の暮らし～
- ⑤6/18(月) 巨大なお墓～古墳時代の暮らし～
- ⑥6/25(月) 勾玉づくり～昔の人のよそおい～

担当者が、明道小の教諭と打ち合わせを行い、左表のように時間割が決まりました。どんな教材を使い、子どもたちの興味を引く授業ができるか担当者の腕、いえいえ頭の働かせどころです。

1回目のメインとなる「都城と火山活動」の話は、火山活動によって水を満々とたたえた湖から水が引いて、都城盆地が姿を現すところを表現したいと考え、模型を作ることになりました。地形に沿って発泡スチロールの板

くり抜いていき、重ねていきます。桜島や霧島連山の高さを合わせて標高どおりに積み上げます。スチロールの板の厚みと縮尺の関係で、かなり急峻な桜島と霧島連山となりました。ここまでは、担当者が一人で作り上げました。そして高さごとに色を塗り分けます。結構時間がかかり、他の準備もあったので応援をもらい、やっとできあがりしました。製作日数

約1週間。でもこれで完成ではありません。都城盆地に水を貯





めるための栓と水を抜く工夫、水が抜けていく原因となった火山の爆発を表現しなければなりません。水の抜け道はプラスチックで栓を作り、スポッと外すことでOKでした。後はどうやって噴火させるかですが、策はあるものです。担当者のアイデアと周囲の協力によりできました。浮き輪の空気入れをペットボトルの底に差し込み、ボト

ルの中にクッション用発泡スチロールの丸い小さな粒を詰め込みました。そして空気入れを押しつけてペットボトルの中に空気を押しこむと……。本番でうまくいけば子どもたちの心をつかむこと請け合いです。

その本番は5月23日。しかし、これがメインではありません。都城盆地の誕生に行きつくまでは、46億年前の地球の誕生から話を始めなければなりません。恐竜の活躍した時代、人類の



誕生した時期などを子どもたちに質問していきました。そして、それらを床に張った6mほどのテープを46億年間に見立て、どの辺に当たるかを聞いていきます。恐竜の時代に人類が誕生したなど、子どもたちからは、様々な意見が活発に出てきました。その中で子どもたちは、人類の歴史が6mの中のほんの数ミリしかないことを知ったのでした。

そのあとは、昨年度作成した「ふるさとブラブラ

遺跡マップ」を使って話を進めていきます。南九州は、霧島や桜島、海の中の火山の活動が活発だったこと勉強しました。そして、メインの模型登場。始良カルデラを噴火させると子どもたちから「オー」という歓声が！！ドキドキしながら空気入れを押しつけた担当者もほっとしたことでしょう。最後は、それぞれの地層の土や火山灰に実際に触って、どんなものなのかを観察してもらい、第1回を終了しました。

しかし、授業はまだ5回あります。今回もたくさんの手作り教材を使いましたが、2回目以降も片平美子明道小校長が「パワーアップしていますね」というほど、すごい教材が登場します。またそれは次号で。

あれっ、縄文人？

